

【西之表市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

西之表市においては、GIGAスクール構想の進展により、児童生徒一人一人に端末が整備され、ICTを活用した学びが新たな段階を迎えている。ICTの活用によって、個々の学習進度や興味関心に応じた個別最適な学びと、児童生徒が互いに意見を交わし、協働して課題を解決する協働的な学びの一体的な充実を目指す。

特に複式学級の多い本市においては、学校間のオンライン連携が極めて重要であり、地理的・人力的制約を克服する手段として、遠隔授業や合同授業の実施が鍵を握る。これにより、児童生徒は多様な視点に触れ、自らの学びを広げることが可能となる。

2 GIGA第1期の総括

第1期では、端末整備と通信環境の構築を行い、市内全小中学校において1人1台端末を整備した。ロイロノート・スクール等の授業支援アプリの導入により、デジタル教材や資料を使った授業、発表活動や意見共有の場面でのICT活用が日常に浸透し始めた。

また、コロナ禍においては家庭学習支援やオンライン授業の実施など、ICTが学びの継続を支える基盤となった。

一方で、次のような課題も顕在化した

- ・ 教員のICT指導力における個人差
- ・ 複式学級での効果的なICT活用手法の不足
- ・ 他校・地域とのオンライン連携の不十分さ
- ・ 端末やクラウドの管理・更新に関する運用負担

第2期では、これらの課題を解消し、端末を「使える」段階から「学びを変える」段階へと進化させていく必要がある。

3 1人1台端末の利活用方策

(1) 学びの質の向上に向けた端末活用の推進

- ・ 学習の個別最適化を図るため、アダプティブ教材やドリル教材の活用を進める。
- ・ ロイロノート・スクール等の共同編集機能等を用い、協働的な意見交換やグループによる発表活動を充実させる。
- ・ 課題解決型・探究型の学習においては、地域の課題や資源を教材として取り入れ、情報収集・整理・発信までの一連の活動を端末で支援する。

(2) 教職員の ICT 活用指導力の向上

- ICT 活用に関する研修を定期的実施する。
- ICT 支援員によるサポート体制を整える。
- 鹿児島 DX 推進リーダーを活用し、好事例の共有と活用促進を図る。

(3) 複式学級対応としてのオンライン学習環境整備

- 複式学級に 2 台の授業用端末を配備し、複数学年の学習環境を保障する。
- 小規模校間でのオンライン合同授業を定期的実施する。

(4) 端末の管理・運用体制の強化

- 教育委員会による一元管理体制を構築し、端末管理やトラブル対応を効率化する。
- MDM、フィルタリングソフト等による管理を徹底し、児童生徒の安全な端末利用を促進する。

(5) 持続可能な整備・更新計画

- 端末更新にかかる財源を中長期的に見通し、計画的な整備を行う。
- 国・県の補助制度を最大限活用する。